

地域農業発展へ有機農業塾

埼玉・寄居町
農業委員会

井伊誠さんが提案し講師も

【埼玉】寄居町農業委員会（室岡重雄会長）は、2021年度から「よりの週末有機農業塾」を開講している。この塾は、農業や自給的農

業、農ある暮らしを始めたい人向けに有機農業の基本的な技術を学ぶ場を提供し、新規就農者や耕作者を増やすことによる遊休農地の発生防止や解消を目的としている。

塾の開講は5月から翌年2月までの約10カ月間で、毎週日曜日の午前9時から正午まで。露地野菜の有機栽培に必要な実

地講義と直売所への出荷体験、里山や竹林の整備もを行い、栽培と販売に必要な技術や知識を養う。塾生は毎年6人程度で町外居住者でも応募は可能。ナスやピーマンなど年間15品目を塾生全員で栽培する。

改良や自身のホームページで農業塾をPRするなど塾活動を盛り上げていく。昨年は塾生らによる農場見学会や収穫体験会を実施し、町民と交流した。過去2年間で2人の卒塾生が新規就農に向けた、本格的な研修を始めた。また、5人の卒塾生

が畑を借り、自給的農業を始めている。井伊さんは「農業の魅力は、季節ごとの移ろいを肌で感じながら仕事ができること。農業委員会と連携し、田畑を使う人を増やし、地域農業の発展に貢献していきたい」と笑顔で話す。



よりの週末有機農業塾講師の井伊さん（中央）と塾生の皆さん

同町で露地野菜や米麦など70品目を栽培する井伊誠さん（46）が、働きながら農業を学べる場を作れないかと町へ相談したのがきっかけ。町も担い手対策の一環として事業化し、井伊さんが講師を務めることになった。